

モブログによるモバイル情報蓄積アプリケーション 「LivesDub」の構築と利用

松村 太郎 *

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科

大月 信彦 **

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科

水島 壮太 ***

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科

概要

モブログ (mobile weblog) は携帯電話などの端末から、どこにいても更新することが出来る個人ウェブサイトの更新システムで、日本でのウェブログ普及とともに利用者が増加している。本研究では個人が携帯電話からメールあるいは Java アプリケーションによって、GPS と赤外線局所位置情報システム (IrPS) による位置情報を付加した上で、ウェブログを更新・編集できるゲートウェイ・インターフェイスと、付加されたメタデータを元にした情報の収集と閲覧を行うことが出来るシステム「LivesDub」を構築した。これにより個人の視点や記憶が地図にマッピングされ、それを閲覧した他者に共有・ダビングされる「くらしのダビング」をコンセプトとしたメディアを実現する。

1. 背景

ウェブログ・モブログ

ウェブログ (weblog・blog) とは web と log を組み合わせたアメリカでの造語であり、インターネット上にある日記形式の個人サイトを指す。Blogger[1] や TypePad[2] 等のホスティングサービスや MovableType[3] や Bloxam[4] 等のサーバにインストールするツールなどの、コンテンツ・マネジメント・システムの一種であり、ウェブブラウザのから直接サイト構築や更新を行うことができる。またモブログ (moblog) とは mobile weblog の略であり、現在ではカメラ付き携帯電話などから送信する画像添付のメールによって更新を行うことが主である。

アメリカでのムーブメント

LivesDub: Design Of Mobile Database Application System Using Moblog

*MATSUMURA taro,

Graduate School of Media and Governance, Keio University

**HISAMATSU Shin-ichi

Graduate School of Media and Governance, Keio University

***MIZUSHIMA sota

Graduate School of Media and Governance, Keio University



図 1 モブログの例

(松村, <http://www.tarosite.net/e-nikki/>)

アメリカでは、1999 年以降の各種ウェブログツールの無償配付、2000 年の同時多発テロ以降の個人による政治的言説の WEB 上での盛り上がり、著名な学者やライターの利用を契機にウェブログは爆発的な広がりを見せている。

その広がりや深まり方は、2004 年のアメリカ大統領選挙の民主党各候補者が従来の選挙運動に加えて、ウェブログをネット上の活動の中心に据えている事からも見て取れる。ウェブ上での情報の効率的な伝播を旨とした、各候補者のそれぞれ特徴的なウェブログ利用のあり方は、社会情報システムとしてのウェブのあり方に一石を投じている。

2. 提案方針

本研究では社会情報システムとしてのウェブログに着目し、これを携帯電話端末から実現するモブログの投稿・閲覧、情報の活用が可能なアプリケーションとコンテンツの設計を「くらしのダビング」メディアと位置付けて構築する。

携帯電話による投稿・閲覧アプリケーションの開発

現状では電子メールによって更新が行われているモブログについて、より簡単な操作で更新が行えるよう、携帯電話プラットフォームの上で動作する Java アプリケーションを開発する。また閲覧は PC の上からが主であっ

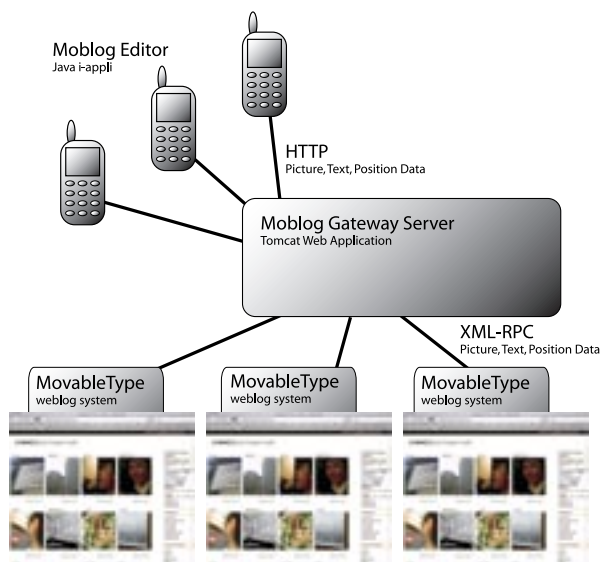


図2 システムフロー

たが、携帯電話からも効率よく閲覧する機能も備える。

サーバアプリケーションの開発

携帯電話から更新を行う際、携帯電話上で動作するアプリケーションの制限が存在しているため、ウェブログがあるサーバと直接データの受け渡しを行うことができない。このためゲートウェイサーバを設置する必要がある。

利用・コミュニケーションの設計

携帯電話でのモブログ投稿・閲覧環境を整備し、モバイル環境に備わっている位置情報をキーとしたモブログデータの活用と、これを起点としたコミュニケーションの設計を、社会情報システム基盤としてのウェブログを視野に入れて行う。

3. 実装システム

システムフロー

携帯電話端末のアプリケーション「Moblog Editor」は、アップロード先の blog のアドレス・ユーザー名・パスワード、画像、テキストデータ・位置情報をゲートウェイサーバに送信する。ゲートウェイサーバは Moblog Editor から送られてきたデータを XML-RPC によってアップロードし、blog が更新される。

XML-RPC[5]

MovableType、Blogger、TypePad などの blog ツールがサポートしている HTTP 上でリモート手続きを呼び出しを行うプロトコルで、ゲートウェイサーバは Moblog Editor から送信されたデータを XML-RPC 形式で blog に更新する際に使用する。

i-appli[6] 「Moblog Editor」

NTT ドコモの携帯電話端末で動作する待ち受け Java アプリケーション「Moblog Editor」は、端末のカメラを起動して撮影、写真に付随するタイトル・コメントを書き込み、ゲートウェイサーバに受け渡して blog をアップロードすることができる。また既にアップロードされている記事の取得し、編集することができる。

4. まとめと課題

本研究は高次メディア化していくケータイの近未来的な使用方法の一つの提案であった。また個人利用だけではなく社会情報システムとしての利用も射程に入っている。

ケータイで本格化しはじめた位置情報・地図情報利用は、LivesDub により記憶の可視化を伴いながら個人のコンテクストレイヤーを付加させて、街の記憶に自分の記憶をアップデート、他人の記憶の共有化を可能とさせる。ケータイは一枚のマップに何層もの情報を付加させる道具として、その場所から様々な意味を切り取る道具として、場所の概念を変質させていくと考えられる。

車いすの利用者ならば、階段の有無、歩道の広さ、段差の有無、坂の勾配、車いす用トイレの位置などを、写真にとりため、コメントをいれ、自身の車いすマップを作成する事が可能となる。共有知が蓄積されれば、ハンディキャップを持った人々がケータイに表示されたマップにハンディキャップ専用のレイヤーを呼び出し、バリアフリーなルートが表示される様なシステムを構築することも可能となろう。

それらは行政などの属性を持っている人間だけではなく、ケータイをもつ全ての人間が日常の視点からの社会情報システムの構築が可能となる条件が整う事を意味する。

また、経済的な観点、文化的観点からも LivesDub によってリアルタイムのコンテクストの付随された写真がマップに蓄積されることの意味は大きい。

現在はサーバアプリケーションと NTT ドコモの i-appli 環境に対応するアプリケーションの開発が完了している。社会情報システムとして整備するため、ドコモ以外での携帯電話での環境構築も必要であり、携帯電話上で動作するアプリケーション開発、サーバの各キャリアへの対応が課題である。

参考文献

- [1] Blogger (<http://new.blogger.com/>)
- [2] TypePad (<http://www.typepad.com/>)
- [3] MovableType (<http://www.movabletype.org/>)
- [4] Bloxam (<http://www.bloxom.com/>)
- [5] XML-RPC (<http://www.xmlrpc.com/>)
- [6] i-appli (http://www.nttdocomo.co.jp/p_s/imode/make/java/index.html)